

# 2022年6月1日『朝礼時法話～報告事項』



## 法話概略【『being ～こだまの会～』の集いより】

去る5月28日、標記の「being ～こだまの会～」の集いにて講演させて頂きました。こちらは、岩手医大NICU（低出生体重児や疾患のある新生児を収容して、最も効果的かつ集約的な治療を行うための施設。新生児集中治療室。新生児特定集中治療室）のドクターとナースの皆さんが、大切なお子さんを亡くしたご家族に寄り添う場を創りたいと願い、2019年に始まった会です。

「being ～こだまの会～」の説明を致しますと、リーフレットにこう書かれています。

### 《名前の由来》

看取り場面の考え方として、このような言葉があります。

『not doing but being』

何かをしようとするのではなく、“ただ悲しみに寄り添い”、「being」“そばに居なさい”という意味です。私たちはこの言葉を大切にしています。

亡くなられた赤ちゃんのこだまは、大好きなお父さま・お母さまといつでもいっしょに居ます。

そして、私たちは、痛みを抱えたご家族といっしょに居ますよというメッセージを込めました。

当日はオンライン形式ではありましたが、NICUのドクターとナースは勿論のこと、以前、NICUでお子さんを看取られたお父さん・お母さんも多数参加されていました。

講演後、参加者皆さんが、当時の想いと現在の想いなどについて語る場が設けられました。

赤ちゃんを亡くしたご家族は、無かったことにされるのが一番辛い。覚えていてくれるのが嬉しいと言います。しっかり受け止めている家族は、上の子や下の子を含めて、家族で亡くした赤ちゃんのことをいつも話したりと前向きに捉えていました。反面、ちゃんと産んであげられなかった自分をいつまでも責めて、ずっと深い悲しみの中でもがいている方もいらっしゃいました。赤ちゃんを失い7年経つというお母さんは、

『この中では、私が一番時間が経っているので、皆さんを元気づける言葉とか、前向きなお話ができたいんですけど、正直、私にはできません。あの子に会いたくて会いたくてどうしようもない。早くこの世から旅立って会いに行きたいって今でも思っています。主人や義母が同じ感覚で思ってくれていることは本当にこの悲しみと辛さは解決することがない、永遠のテーマなんだと思っています。』

このような悲しく辛い話を正直に話せる、聴いてもらえるという場は世間にはほとんどありません。看取り後もこのような場を創っておられる存在そのものが貴重で尊いものだと思えます。この会の名前の由来の通り、「doing」何かをしてあげる… よりももっと大事な、悲しみを打ち明けたその人の存在価値が『being』にあるという事。世の中の評価や成果の対象となる「doing」は世間を生き抜く上で必要だけれど、評価や成果の対象とならない『being』という根柢の存在意義を大切にすることが下支えにあって、私たち一人一人の実践（doing）の意義がより深まることを大事にしたいと思うのです。

## その他連絡事項

- ① 職員2名、ご家族のコロナ陽性を受けて、接触者として自宅待機中です。状況見ながら休む期間を決定して参りますが、その部署が手薄になりますので、声掛けやヘルプ、できる事をお手伝いしましょう。
- ② 本日より、調理部門に新職員が就職となりました。宜しくお願い致します。
- ③ 6月は防災訓練を含め、研修が沢山あります。一つ一つ確認しながらクリアして参りましょう。
- ④ ショートステイ再稼働後、初の利用者Sさんが今日からご利用されます。宜しくお願い致します。
- ⑤ 今日はお年寄りお二人の誕生日です。お声掛け等して参りましょう。
- ⑥ 「動きだしんぶん」6月号です。各部署・各ユニットでお目通し下さい。

【光寿合理事長】